FCO·OP
ともに生き、ともにつくる、くらしと地域

「子どもたちによる3Rのとりくみ」

エフコープ生活協同組合

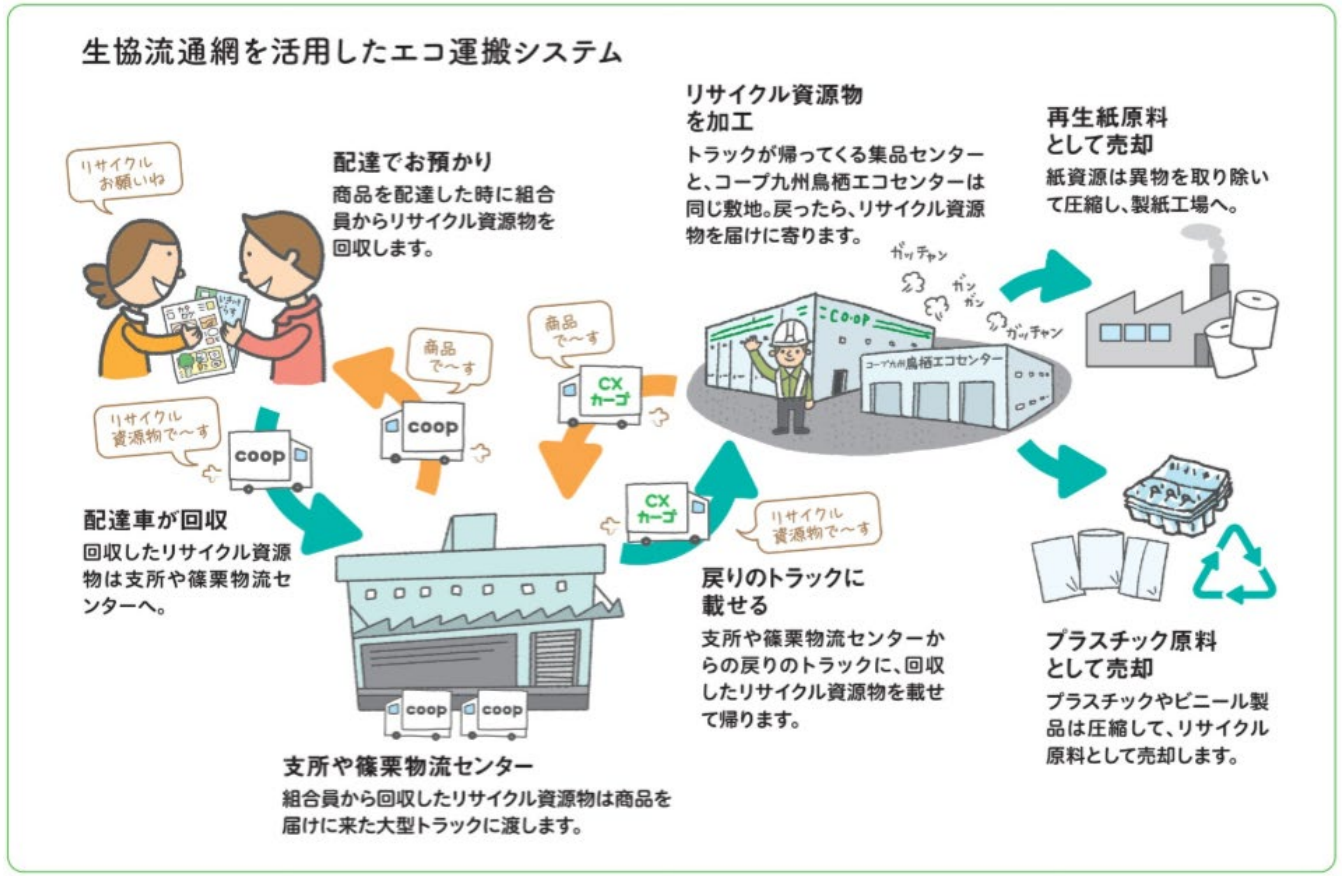
ともに生き、ともにつくる、くらしと地域

1.エフコープについて（2023年3月末現在）

設立	1983年(昭和58年)4月1日
事業、活動地域	福岡県全域（本部　福岡県篠栗町）
組合員数	554,183名(2023年3月末)
出資金	243.28億円(2023年3月末現在)
供給高	620.938億円(2022年度見込み数値)
主な事業内容	無店舗事業(グループ配達、個別配達、夕食宅配など) 店舗事業(県内15店舗) 福祉事業(高齢者介護、しょうがい者、子ども・子育て) 共済・保険事業、電力小売事業、水の宅配事業 生活関連サービス事業(住宅、葬祭) 農産物の生産事業(しいたけ、ミニとまと)　※子会社含む

2.リサイクル回収のシステム

カタログ等のリサイクルについて



●配達時にお預かり
↓
●支所や物流センターに持ち帰り
↓
●集品時の大型トラックにてエコセンターへ持ち帰り
↓
●コープ九州鳥栖エコセンターにてリサイクル資源物を加工
↓
●再生紙原料として売却orプラスチック原料として売却

※エフコープでは、毎年このリサイクル収益の一部を環境に配慮した活動を行っている団体へ「エフコープ環境助成金」として助成しています。

2.リサイクル回収のシステム

カタログ等のリサイクルについて

年度 / 品目	2019年度	2020年度	2021年度
①商品カタログ	4,383.4t	3,993.6t	4,178.7t
②紙（牛乳）パック	96.5t	103.2t	106.1t
③配達（集品）袋	64.7t	67.0t	65.6t
④A-PET たまごパック	31.1t	35.0t	40.3t
⑤食品トレー	35.8t	37.2t	44.5t

①商品カタログ　**約836万部分**

②紙(牛乳)パック　**約319万パック分**

④A-PETたまごパック　**約121万パック分**

⑤食品トレー　**約1,272万枚分**

【品目ごとの再生利用】
①商品カタログ②紙(牛乳)パックは良質な古紙原料として、トイレットペーパーの原料として使用。
③配達(集品)袋はメーカーにて再生ポリ袋原料として使用。
④A-PETたまごパックはメーカーにて再生たまごパック原料として使用。
⑤食品トレーはトレーメーカーにて再生トレーの原料として使用。

3.大木町との連携

福岡県三潴郡大木町は2021年4月より給食の牛乳がビンから紙パックに変更となりました。しかし、大木町は「環境・リサイクル日本一のまち」を宣言しており、その牛乳パックを焼却処分しづらく、処分方法に困っているということでした。※大木町は環境問題（特に分別リサイクル・焼却処分をゼロへ）にとても力をいれて取り組んでいます。

大木町もったいない宣言

ゼロウエイスト宣言

地球温暖化による気候変動は、100 年後の人類の存在を脅かすほど深刻さを増しています。その原因が人間の活動や大量に資源を消費する社会にあることは明らかです。
私たちは、無駄の多い暮し方を見直し、これ以上子どもたちに「つけ」を残さない町を創ることを決意し、「大木町もったいない宣言」をここに公表します。

子どもたちの未来が危ない

1. 先人の暮らしの知恵に学び、「もったいない」の心を育て、無駄のない町の暮らしを創造します。
2. もともとは貴重な資源である「ごみ」の再資源化を進め、2016 年（平成 28 年）度までに、「ごみ」の焼却・埋立て処分をしない町を目指します。
3. 大木町は、地球上の小さな小さな町ではありますが、地球の一員としての志を持ち、同じ志を持つ世界中の人々と手をつなぎ、持続可能なまちづくりを進めます。

以上宣言します

大木町もったいない行動宣言

「もったいない」の心を育てる教育

1. 大量に物が氾濫する社会のなかで育った世代は「もったいない」の心が十分には育っていません。特に子ども世代を対象に「もったいない」の心を育てる教育は何よりも大切です。「もったいない」を実践してきた高齢者と子ども世代や若い世代の交流を進め、「もったいない」の心を育てる教育を実践します。

町はリデュース、リユースを推進

2. 2000 年（平成 12 年）に制定された資源循環型社会形成推進基本法は、3R の中で、リデュース（減らす・無駄をなくす）、リユース（再利用）の考え方を優先し、リサイクル（再資源化）は最後の手段として位置づけています。リサイクルは必ずしも資源やエネルギー削減につながらず、特に容器包装にかかるリサイクル費用の大部分は自治体負担になるなど多くの問題があります。大木町はリデュース、リユースを推進し、無駄の多い容器包装の発生抑制に努めます。

ごみの発生抑制など、法制度の早急な整備を求めていく

3. 大木町は、製品や容器包装の再資源化費用をすべて生産者が負担する拡大生産者責任の徹底や、容器包装のディポジット制度導入など、ごみの発生抑制や分別収集の徹底などに役立つ法制度の早急な整備を国や関係機関に求めて行きます。

平成 28 年度までに、ごみの焼却・埋立て処分をしない町を目指す

4. 大木町では、2006 年（平成 18 年）11 月より生ごみの分別収集を開始し、住民みんなの力で燃やすごみの大幅削減に成功しました。また、2007 年（平成 19 年）度より燃えないごみの分別品目を増やし、2008 年（平成 20 年）度からのプラスチックごみの分別を予定しています。ごみの減量と分別資源化を進めるための数値目標を定め、2016 年（平成 28 年）度までに、ごみの焼却・埋立て処分をしない町を目指します。

以上宣言します。

3.大木町との連携

•大木町とのとりくみ

•大木町とは、2020年よりプラスチックリサイクルの取り組みにおいて、エフコープ組合員理事対象のワークショップ開催や、大木町住民とのワークショップにエフコープ組合員理事が参加するなど連携を行ってきました。

•その連携のなかで、大木町立小学校3校(大溝・木佐木・大莞)、大木中学校1校(児童・生徒計1401名＋教員)の給食牛乳が、2021年4月よりビンから紙パック(200ml)に変更になる事をうけ、2021年4月に大木町まちづくり課(環境担当)のご担当者様より、エフコープに対して牛乳パック回収の協力依頼がありました。

•双方にて協議を行った上で、大木町との「資源回収に関する協定書」を締結し、エフコープによる牛乳パック回収の運用がスタートしました。

3.大木町との連携

■協定についての主な内容

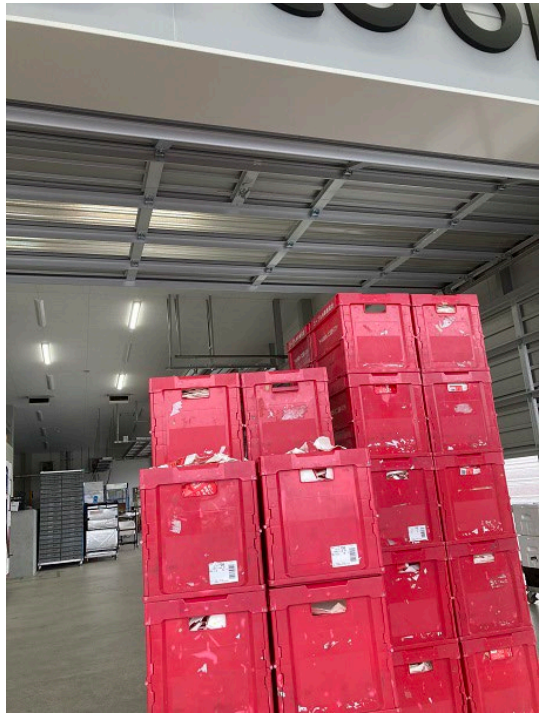
①.大木町立小学校3校(大溝・木佐木・大莞)＋大木中学校(4校の児童・生徒、合計1401名)の学校給食で出される牛乳の紙パックをエフコープ筑後支所にて回収する。

②.回収する牛乳パックは、学校側(児童・生徒)で展開・洗浄し乾燥させたあと、エフコープの指定する箱(赤ドライボックス)に詰める。

③.筑後支所にて、毎週月曜日に指定された場所・時間に回収をおこなう。

3.大木町との連携

■回収の様子



3.大木町との連携

■町立小中学校での回収量（2021年7月～2022年10月）

2021年7月～2022年10月までに**3,692kg回収**させていただきました！

（2023年3月までに約5,200kg回収）

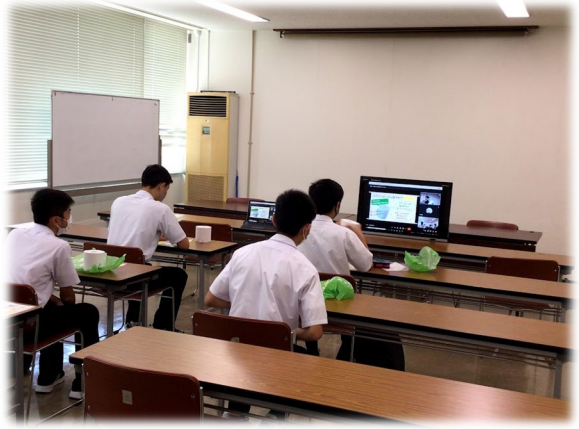
回収した重量から精製できるトイレットペーパーは（130m巻きとして）**約9,500ロール！**

（2023年3月までに約13,400ロール）

4.環境(リサイクル)学習会

■大木町立中学校での環境(リサイクル)学習会の開催

回収された牛乳パックは、その後どのようにリサイクルされているのかを知ってもらうため、2021年9月には大木中学校の生徒代表者を対象に、トイレットペーパー(コアノンロール)を製造している大分製紙と大木町役場をオンラインで結び環境学習会を開催しました。



5.生徒・児童によるトイレットペーパーの利用

■大木町立小中学校でのトイレットペーパー納品、利用

回収した牛乳パックを原料として作られたトイレットペーパーを4つの小・中学校に納品し、生徒・児童たちが利用することでさらに資源循環・リサイクルを実感できる機会を作っています。

5.生徒・児童によるトイレットペーパーの利用

■大木町立小中学校でのトイレットペーパー納品、利用

2022年10月時点で130m巻きトイレットペーパー(コアノンロール)24ロール入りケースが150ケース**(3,600ロール)**を購入、ご使用いただいており、重量にして**1,400kg**となります。
また、2021年12月からは同小・中学校4校で、回収した牛乳パックも入った再生紙100%のトイレットペーパー(コアノンロール150m×24ロール)を2022年3月までに56ケース約416kgを利用いただき、資源の循環が始まっています。

6.とりくみのポイント

■商品の製造から、販売・流通、そして利用者からの資源回収までの流れを、お互いの顔が見える関係性をもって構築している。
■また、リサイクルで得た収益（古紙の販売益）を原資に、地域の環境活動団体等へ助成事業として還元している。

↓

「エフコープ環境助成金」

7. エフコープ環境助成金

・環境助成制度設立の目的

・◇エフコープでは設立当初より、地球環境保全の取り組みについて組合員を中心に展開してきました。

・◇環境助成金は環境に関する取り組みの幅を広げ、エフコープが持続可能な社会の構築のために地域社会への貢献を果たしていくことを目的として2006年に設立されました。

7. エフコープ環境助成金

・環境助成金制度の設立背景

- ◇環境助成金制度の背景には、組合員の参加によるカタログ、牛乳パック等のリサイクルがあります。
- ◇回収されたカタログ、牛乳パック等は有価物として処理され、年間一定の収益となっています。
- ◇この収益は組合員の環境への取り組みの成果であり、一定の割合で組合員や地域へ還元すべきものと考えています。

7. エフコープ環境助成金

- **環境助成金報告会を開催**

- ◇当該年度にエフコープ環境助成金を受けた団体が、助成事業の活動報告を行っています。
- ◇報告会には、助成団体以外にもエフコープの職員や地域の組合員なども参加しています。
- ◇また、さまざまな団体同士の交流の場としても活用されています。

7. エフコープ環境助成金

これまでの助成実績（2006年～2023年）

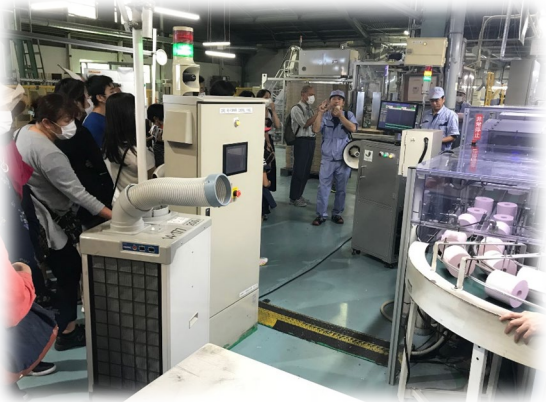
◇総助成団体数：178

◇総助成額：4,712万8,535円

8.今後は…

■大木町立小中学校の児童、生徒を生の工場見学

（以前の工場見学の様子）



■学習の機会を増やす為、中学校のみでなく小学校でも環境（リサイクル）学習会開催
■地域密着を目指し、近隣支所との情報共有
■牛乳アレルギーの生徒、児童への配慮

8.今後は…

■以前の工場見学感想文(一部抜粋)

◆今回、初めて見学会に応募し参加させて頂きました。夏休みということもあり仕事ばかりで子どもたちをどこにもつれて行ってあげられないので、子どもたちと一日楽しく過ごさせて頂きました。製紙工場では、ネットが苦手なので生協の注文が未だに紙カタログなので、紙がもったいない気になっていました。工場見学をしてとても暑い中、リサイクルされてありがたい気持ちでいっぱいです。工場で働かれている方々、暑い中毎日ありがとうございます。色々な説明などお話し、楽しかったです。紙すきも興味があり家でやってみようと思います。

◆こんなことがないと、工場見学とか見ることができないので貴重な体験をさせてもらいありがとうございました。大変楽しく、またこのような工場見学があったら参加しようと思います。暑い中、工場の中の説明をされありがとうございました。

◆見学の通路が整備されており、子どもたちも見学がスムーズにできておりました。実験で紙すきがあり興味を持ったことでしょう。家庭で早速してみようと思います。

ご清聴ありがとうございました